

## 人権侵害に関する概要（令和2年度）

### 1 人権侵害事案の状況等

#### ① 相談件数

	アカハラ関係	セクハラ関係	パワハラ関係	その他	計
相談件数	2(*1)	0	6	1	9(*1)

#### ② 苦情申立て及び調停申立て件数並びに措置件数（調査及び調停の実施状況）

	アカハラ関係	セクハラ関係	パワハラ関係	その他	計
苦情申立件数	2(*1)		2		4(*1)
調停申立件数			1		1
役職者等対応件数		0	4	1	5
措置件数	1(*1)	0	5	1	7(*1)

(\*1) 過年度からの継続事案件 1 件を含む

### 2 人権委員会の開催状況

令和2年度 計2回開催

### 3 人権に関する研修状況

#### ・令和2年度大阪教育大学ガイダンス

日 時 令和2年5月29日（金）～令和2年6月8日（月）  
 テーマ 「本学にとっての人権と人権教育」  
 講師 森 実（地域連携・教育推進センター教授）

\* 新たに採用された大学教員・事務系職員に対して、本学の人権教育の特徴を実際の授業内容や学習活動を交えて説明した。e-learning システムでの実施。

#### ・令和2年度教職員セミナー

日 時 令和2年11月25日（水）  
 テーマ 「安全・安心な関係性と性的健康（sexual health）」  
 ～コロナ禍におけるトラウマインフォームドケア～  
 講師 野坂 祐子氏（大阪大学大学院人間科学研究科准教授）

\* 野坂氏がコロナ禍では感染自体に注目が集まりやすいが、実際は自殺者数や中高生の性的な問題が増加していることやその影響について説明した。また、この問題は男女共同参画やジェンダーとも関係が深く、コロナ禍における注意点を解説した。

学校現場においては、つらい状況にいる子どもたちが、自らの「性」を問題解決の手段として用いる理由について、その背景とともに説明した。子どもの性行動の問題に対峙する際には、性に関する知識や危険性だけを伝えるのではなく、むしろ普段の学級運営で子どもたちの不安解消、人との関わりや関係性、自分に自信を持たせるといふようなことをめざすことが、遠回りでも効果があると述べた。

また、学校現場の教員が、学生・生徒・児童・園児らの性的な問題に対応する際のアプローチは、心理職が担う「トラウマのケアそのもの」ではなく、まずは「背景に何かあるのかもしれない」と理解しようとする視点をもって行動の背景を意識的に見るアプローチである「トラウマインフォームドケア」を紹介するとともに、チームで取り組むことの大切さについても強調した。

#### ・第43回人権教育全学シンポジウム

日 時 令和2年12月9日（水）  
 テーマ 「学校のサンクチュアリ ～子どもの背景に迫る教育の支援～」  
 講師 金光敏氏（特定非営利活動法人コリア NGO センター事務局長・理事）

\* 金氏が実行委員会委員長を務める大阪府中央区の夜間教室「Minami こども教室」の取組を中心に、自身の経験も振り返りながら、外国ルーツの子どもたちにとって、日本語指導はもちろんのこと、保護者の生活支援も含めた取組の必要性について語った。

・令和2年度管理職セミナー

日 時 令和3年2月15日（月）  
講 師 株式会社 FOURBRAIN

\* 管理職に必要な知識を習得すべく、社会保険労務士から、労務管理、ハラスメントなどに関わる研修を行った。オンラインでの実施。

大阪教育大学人権委員会